授業科目	スクールカウンセリング論					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	4	開講時期	後期
担当教員	水貝　洵子						
授業概要	本授業では、スクールカウンセリング事業の概要について解説するとともに、児童期・思春期を対象としたカウンセリングの在り方について理解を深めていくことを目標としている。また、学校臨床における有効な支援のための多職種連携の在り方についても理解を深めていく。						
授業形態	講義			授業方法	ディスカッション グループワーク		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1．スクールカウンセリングの概要、課題について説明ができる。 2．児童期・思春期を対象としたカウンセリングの留意点について理解し説明することが出来る。 3．学校臨床における連携の在り方や重要性を理解し、説明することができる。
理想的レベル	1．スクールカウンセリングの概要、課題について適切に説明することができる。 2．児童期・思春期を対象としたカウンセリングの留意点について理解し、自身の適切な援助の在り方について考えることができる。 3．学校臨床における連携の在り方や重要性を理解し、連携上の留意点について考え、説明することができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	70%	
小テスト		
レポート	20%	授業にて提出を求める質問感想シートやワークシートを指す
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他	10%	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	-	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE31417J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
該当箇所の復習および授業で扱った内容についての調べ学習	4

授業計画

第 1 回	テーマ：オリエンテーション 授業のオリエンテーションを行う。その後、スクールカウンセリングに関する諸概念やキーワードについて解説する。
第 2 回	テーマ：スクールカウンセリングに関する諸概念 スクールカウンセリングに関する諸概念やキーワードについて解説する。
第 3 回	テーマ：スクールカウンセリングにおける活動 1 スクールカウンセリングにおける個別相談の活動を取り上げて解説を行う。

第 4 回	テーマ：スクールカウンセリングにおける活動２ スクールカウンセリングにおけるコンサルテーションの活動を取り上げて解説を行う。多職種との連携の在り方についても学習する。
第 5 回	テーマ：スクールカウンセリングにおける活動３ スクールカウンセリングにおける心理教育の活動を取り上げて解説を行う。多職種との連携の在り方についても学習する。
第 6 回	テーマ：スクールカウンセリングにおける活動４ スクールカウンセリングにおける危機介入の活動を取り上げて解説を行う。多職種との連携の在り方についても学習する。
第 7 回	テーマ：スクールカウンセリングにおける活動５ スクールカウンセリングにおけるシステム構築の活動を取り上げて解説を行う。
第 8 回	テーマ：児童期・思春期を対象としたカウンセリング１ 解決志向アプローチに基づいたカウンセリングについて解説を行う。実習等を用いて体験的な理解を目指す。
第 9 回	テーマ：児童期・思春期を対象としたカウンセリング２ 解決志向アプローチに基づいたカウンセリングについて解説を行う。実習等を用いて体験的な理解を目指す。
第 10 回	テーマ：児童期・思春期を対象としたカウンセリング３ 解決志向アプローチに基づいたカウンセリングについて解説を行う。不登校などの事例を紹介し、カウンセリングアプローチについて理解を深めるとともに、不登校などスクールカウンセリングで出会う事例や症例に対する理解を深めていく。
第 11 回	テーマ：児童期・思春期を対象としたカウンセリング４ 解決志向アプローチに基づいたカウンセリングについて解説を行う。不登校などの事例を紹介し、カウンセリングアプローチについて理解を深めるとともに、不登校などスクールカウンセリングで出会う事例や症例に対する理解を深めていく。
第 12 回	テーマ：保護者との面接１ 学校場面における保護者とのやりとりについて、ラポールの形成から連携に至るまでの配慮点等について解説を行う。
第 13 回	テーマ：保護者との面接２ 学校場面における保護者とのやりとりについて、ラポールの形成から連携に至るまでの配慮点等について解説を行う。事例紹介や実習を交えながら理解を深めていく。
第 14 回	テーマ：多職種との連携 児童虐待の事例を紹介し、学校における児童虐待への支援について理解を深めるとともに、学校内外での多職種と連携のあり方や重要性について学習する。
第 15 回	テーマ：まとめ これまでの授業内容の振り返りを行う。スクールカウンセリングの現状や課題について整理する。
テキスト	指定しない。 授業ではレジュメを配布する。
参考図書・教材／データ	『明解！スクールカウンセリング』 黒沢幸子・森俊夫・元永拓郎（著），金子書房. 『指導援助に役立つ　スクールカウンセリング ワークブック』

ベース・雑誌等の紹介	黒沢幸子（著），金子書房. 『学校で活かす　いじめへの解決志向プログラム一個と集団の力を引き出す実践方法』 スー・ヤング（著）黒沢幸子（監訳），金子書房.
課題に対するフィードバックの方法	レポートを通じて出された授業内容に関する質問や感想については、適宜授業内で取り上げ回答する。
学生へのメッセージ・コメント	積極的に授業に参加し、学んだ内容を自身の実践に結び付けて考える姿勢が求められる。